

6 学年

実践例

筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう

学習計画表 全10時間

1. 学習課題を確認し、学習計画を立てよう

1時間

- 絵を「読む」って…？ 学習の見通しをもとう。
- 絵を読み取り、自分と筆者の見方や感じ方を比べよう。

2. 「鳥獣戯画」を読み、筆者のものの見方について考えよう。

3時間

- 視点に沿って文章と絵を対応させながら、読もう。
- 絵や絵巻物に対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめよう。
- 表現や構成の工夫点を整理しよう。

3. 「鳥獣戯画」の絵について、筆者と自分の見方を比べ、自分の考えをまとめよう。

3時間

- 絵に対する自分の考えを200字程度でまとめよう。
- 書いたものを読み合い、感想を伝え合おう。



★読み取ったことや感じたことを表現しよう

「この絵、私はこう見る」

4時間

- 絵を見て、読み取ったことや感じたことを、ふせんに書き出し整理しよう。
- 効果的な表現の工夫を考え、文章を書こう。

第6学年 国語科学習指導案

1. 単元名「筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう」

教材名「『鳥獣戯画』を読む」（光村図書六）

2. 本単元で付けたい力

○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 【C(1)ウ】

○文や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 【C(1)オ】

○文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 【伝国(1)イ(オ)】

3. 単元について

単元観

○本単元では、絵と文章とを対照しながら読み、筆者のものの見方を捉えたうえで、絵に対する自分の考えをまとめていく。つまり、「事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」こと、友達との交流を通し「自分の考えを広げたり深めたりする」ことをねらいとする。主に次のような指導内容が中心となってくる。①絵と文章を照らし合わせて読み、筆者の評価とその対象を捉える。②筆者の見方を読者に伝えるための、表現や構成の工夫を捉える。③自分が『鳥獣戯画』を見て感じることをまとめ、筆者のものの見方や感じ方について、共通するところや違うところを友達と交流する。④教材文で学習したことを、日常生活で絵画や写真を見るときにも活用することである。

○本教材「『鳥獣戯画』を読む」は、十二世紀末に生み出された「鳥獣人物戯画」の一場面について、高畑勲氏がアニメーション監督の視点で書いている説明的文章であり、絵に対する解説・解釈・評価が述べられた評論文の特徴をもっている。「鳥獣戯画」は筆者のものの見方（解釈・評価）とその対象が明確に表されているため、筆者のものの見方をとらえやすく、児童が自分の考えと比較することができやすい教材であると考えられる。また、絵と文章を照らし合わせながら読むことで、筆者の着目点やそれに対する評価、表現の仕方に気づき、体言止めや語りかけるような表現などものの見方や感じ方を伝えるための筆者の工夫を学ぶことができる。筆者の説明の中には、全体について着目しているところや、部分に着目して詳しく説明しているところもある。そのような、技法を、鑑賞文を書き進んでいくときにも活用できるようにしたい。また、非連続型テキスト（絵）と連続型テキスト（文章）を照らし合わせて読みながら、自分の考えを明確にしながら読むことで、今後同様の文章に出会った際、書かれたことを受け取るだけの受動的な読みからの脱却を目指し、能動的に自分の考えをめぐらせながら、読む態度を育てていきたい。

児童観

○省略

指導観

○第1次では、まず絵を「読む」とはどのようなことなのかを想像させる。そして本文のさし絵を提示し、実際に絵の鑑賞を試み、本文への関心を高め通読する。その際に事実や意見、感想の区別を行い、全文をおおまかにとらえ、これからの活動への見通しを持たせる。

○第2次では、事実部分と筆者の「鳥獣戯画」の評価をしっかりと区別して読ませる。また、筆者のものの見方を読者に伝えるための、表現や構成の工夫を捉えさせる。そして、自分の鑑賞文を書きたいという意欲を高める。

○第3次では、自分が「鳥獣戯画」を見て感じることをまとめる。お互いの鑑賞文を伝え合うことで、友達の考え方や見方に触れ、自分の考え方や見方を広げさせる。

4. 単元構想（単元計画と評価）

単元の目標

- 絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む	言語についての知識・理解・技能
・絵巻物の対する筆者の見解に興味を持ち、文章を読もうとしている。	・筆者がどのようなことを根拠として考え述べているのかを捉えている。 【C(1)ウ】 ・筆者の意図と表現の工夫との関連について考えている。 【C(1)ウ】 ・自分と他者とのものの見方や感じ方の共通点と相違点を明らかにし、自分の考えを深めている。 【C(1)オ】	・文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。 【伝国(1)イ(オ)】

		学習活動	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
第一 次	1	○絵を「読む」とはどのようなことを考え、学習への意欲や見通しをもつ。 ・絵（P137）を読み取り、自由に鑑賞し、伝え合う。 ・筆者のものの見方や感じ方との違いに気づく。 ・事実と感想・意見の区別をする。	○			・絵について興味をもち、自分の感じ方と筆者の見方や感じ方を比べながら読み、感想を述べている。	発言 ノート
第二 次	2 本 時	○「鳥獣戯画」（P137・139）の絵を読み、筆者のものの見方について考える。 ・視点に沿って文章と絵を対応させながら読む。 ・絵に対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。		◎		・絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵をどう評価しているのかについて読み取っている。 ・読み取った筆者の評価や表現のしかたに対し、自分の考えをまとめている。	発言 ノート 行動観察
	3	○「鳥獣戯画」の絵巻物（P140・141）を読み、筆者のものの見方について考える。 ・視点に沿って文章と絵を対応させながら読む。 ・絵巻物に対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。		◎		・絵巻物のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵をどう評価しているのかについて読み取っている。 ・読み取った筆者の評価や表現のしかたに対し、自分の考えをまとめている。	発言 ノート 行動観察
	4	○「『鳥獣戯画』を読む」の中から筆者が使っている表現や構成の工夫をとらえる。 ・表現や構成の工夫点を整理する。		◎		・表現や構成の工夫について、その効果をまとめ、話し合っている。	発言 ノート 行動観察
第三 次	5 6	○実にすばらしい（P140L9）に対する自分の考えを200字程度でまとめ交流する。			◎	・『鳥獣戯画』の絵について自分の考えを文章にまとめている。 ・友達と交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。	ノート 行動観察

	<ul style="list-style-type: none"> ・着眼点(形・大きさ・色・格好・表情・気持ち等)を意識させて,考えをまとめる。 ・自分と友達の見方・考えを比べながら読み合う。 				
--	--	--	--	--	--

5. 本時の指導 (2/6)

(1) 目標

○筆者が,絵の描き方について,どんな感じ方や評価をしているか,絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。

(2) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆読み取った筆者の評価や表現のしかたに対して,自分の考えをまとめている。

- ・筆者は～と考えていましたが,私は～というように感じました。
- ・私は筆者の見方と同じでした。私も～と見えました。

A 十分満足できる状況

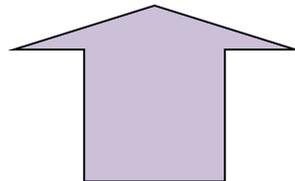
◇読み取った筆者の評価や表現のしかたに対して,自分の考えや自分の解釈を含んだ意見を表現することができる。

- ・筆者は～と書いていました。それにつけ加えて私は,○○ということも感じました。
- ・筆者は～と思ったと書いていました。僕は○○と感じました。自分だけでは思いつかなかった,絵の感じ方や見方を知ることができました。

(3) 本時における研究主題の追究

本時における深い学び

絵と文章とを関連づけ筆者のものの見方と,自分の考えを比較すること



【主体的な思考を促す発問・指示の工夫】

○筆者の絵の見方に対する自分の考えをスケーリングで表させることによって,主体的な思考を促す。

《軸となる本時の言語活動》
筆者の「絵」の見方に対して自分の意見を持ち,交流する。

【学習形態の工夫】

○分かりやすくするために,赤,青の線引きを行うことで,筆者の説明と評価の区別を視覚的に分かりやすくする。

(4) 展開

学習活動	○主な発問や指示・児童の姿	◎支援◆評価（評価方法）
つかむ (10分)	<p>1 前時に学んだ絵を解釈する視点について考える</p> <p>○1枚の絵をいろいろな視点の捉え方ができましたね。どんな視点がありましたか？</p> <ul style="list-style-type: none">・何を取り上げるか・取り上げたもののどこに目を向けるか・どのような言葉で評価するのか。・作品の全体を見たり,細かい部分を見たり	<p>◎P146の「たいせつ」とコラム「絵画や写真を見るときには」を確認させる。</p>

本時の課題
絵と文章を照らし合わせながら,筆者の見方を読み取ろう。

<p>考える (15分) ・学び合う (15分)</p>	<p>2 筆者の説明や評価を見つけ確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ①～⑥段落を音読する <p>絵と事実・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤線を引く。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 青線を引く。 <p>3 筆者の「絵」の見方に対しての自分の意見を持ち、交流する</p> <p>(1) 個人思考</p> <p>(2) 全体での話し合い</p>	<p>○筆者の絵に対する説明や評価を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 蛙と兎が相撲をとっている。 すかさず兎は足をからめて返し技 蛙が兎の耳をがぶりとかんだ たまらず兎は顔をそむける・蛙が外掛け 抑揚のある線と濃淡だけ のびのびと見事な筆運び・その気品 生き生きと躍動している・人間くさいのに まるで人間みたい 何から何まで本物の生き物のまま 等 <p>○筆者の「絵」の見方に対する自分の考えを5段階で表しましょう。</p>	<p>◎文と絵の対応が分かるように、文に赤線を引き、対応する絵は赤線で囲み、その分と線で結ばせる。</p> <p>◎目に見えるものは、事実、見えないものは評価であることを確認させる。</p> <p>◎黒板に自分のスケーリングが視覚化できるように付箋を貼らす。スケーリング(納得度を5段階に表す)により、自分の考えを明確にさせ、視点を絞って書かせる。</p> <p>◆読み取った筆者の評価や表現のしかたに対して自分の考えをまとめている。 (発言・ノート)</p>
<p>まとめる (5分)</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、課題について再考する</p>	<p>○友達の見方を聞いて、新しく感じたこと、気付いたこと、より深まったことは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> Aさんの～というところが納得できないという意見は私とは少しいます。私は～と思いました。 	<p>◎友だちとの意見の相違をもとに、考えの深まりを表現させる。</p>

6. 本時の学習様子

(1) 中心活動の様子

① 前時の振り返りを確認～絵と文章を照らし合わせながら、筆者の見方を読み取ろう～

<前時の振り返り>

- ・ケンカと思っていたけれど相撲だった等
- ・筆者は相撲の技まで読み取っている。
- ・どのように動いているか読んでいる。
- ・蛙の模様や兎の耳の特徴まで読んでいる。等



本時の活動を焦点化するために、「すもう」場面であることを確認する。

② 筆者の絵に対する説明や評価を見つける

赤→耳の先だけぼちんと黒い。
青→今、ひよいと立って遊び始
めたのだとしか思えない。



1段落から6段落までを読み、取り上げているもの、説明や事実は赤色で、評価は青色で線を引きます。また、絵と文章を結んで、絵にも○印をつけましょう。

③ 筆者の「絵」の見方に対して自分の意見を持つ

筆者の見方に全く同じは
5、だいたい同じは4、ま
あ同じは3、あまり同じで
はないは2、全くちがう意



スケーリングにより、自分の納得度を視覚化させ、視点を絞らせる

筆者はほんのちょっとした筆さばきを見事に表現している。といているが、ぼくは、その周囲の絵があるからこそ、その筆さばきがいかにされていると思う。



④ 本時の振り返り（抜粋）

○ ○ ○ さんの意見を聞いて、筆者と違う見方がたくさんありました。例えば、冬の水蒸気を描いているという意見がありました。私はなるほど、それも見えるなと思いました。

○ ○ ○ 君は、兎や蛙の周囲の植物などでも様子を表していると言っていた。そういう見方もあると思いました。

○ ぼくは、絵だけを見ていたけど、○ ○ 君は文章とつなげてしっかりと見ていました。ぼくも真似しようと思いました。

(2) 本時最終の板書



7. 本校研究テーマとの関わり

(1) 主体的・対話的な思考を促す発問・課題の工夫

絵と文章を対比させながら、筆者の絵の見方に対する自分の考えをスケーリングで表させることによって主体的な思考を促した。

(2) 深い学びの見取り

筆者の読みに対して自分の納得度を5段階評価で表させた。板書に付箋を貼ることで、人それぞれ考えがあり意見が違うことを意識することができた。納得度は、5全く同じ0人、4だいたい同じ7人、3まあ同じ19人、2あまり同じではない6人、1全く違う0人であった。スケーリング

することで、自分は筆者とどこが違うのか、違いに焦点を当て意見を書くようにさせた。子ども達は違いを意識することで、筆者の評価や表現のしかたについて、自分の何が同じで、何が違うのかを明確にすることができ、自分の考えをまとめることができた。

「鳥獣戯画」の蛙について、自分の考えを書こう

手を大きく上にあげ、しりもちをついている。何かにおどろいたのか。いやしかし、口を大きく開け、笑っているようにも見える。

蛙に投げとばされ、転がってきた兎にびつくりしたのか。それとも、兎の耳をかむという反則技をして勝ったことを、ほこらしげにポーズを決めて喜んでいる蛙に対して、大笑いをしているのかもしれない。

私は笑いすぎても、このようにはならないけど、私の周りにこのかえるのような笑い方をする人がいる。この蛙は、よほど面白かったんだなとまう。。

真ん中の蛙は両手を上に上げ、今にも転びそうなほど後ろにのけぞっている。私が思うには、兎の耳をかむという反則技で蛙は勝利し兎が勢よく転がる。この兎の目の前にいたこの蛙は、きつと驚いたあまり、こんなに後ろにのけぞってしまったにちがいない。証拠に蛙の目が大きく見開いている。そして両手を上に上げているから、きつと「ぎゃあ！」や「うわあっ！」などと言って、大きく驚いているのだ。

8. 本時後の実践

「鳥獣戯画」を学習後「風神雷神画」を使って自分の読み取ったことや、感じたことを表現した。

